

令和6年9月24日



# 大型クラゲ情報(令和6年度第10号)

## 概要

- 全体的に減少傾向にあるようですが、小型底びき網・沖合底びき網では大型クラゲの入網が続き、漁業被害が報告されています。沖寄りの漁場にはまだ滞留していると考えられるため、引き続き、底びき網を中心に警戒が必要です。

## 本県の出現状況(9月13日～19日)

- 県西部の小型底びき網では1網あたり数10個体以上の入網があり、操業遅延や鮮度低下、魚体の白化といった漁業被害も報告されています。なお、場所によって粗密があるものの、全体的には減少傾向にあるとのことです。
- 山口沖以西で操業する沖合底びき網でも入網が続いており(数量不明)、操業遅延、鮮度低下、魚体の白化といった漁業被害が生じています。なお、山口県見島南方の海域は数が少ないとのこと。また、場所にもよるが多少数が減ってきた、との報告もあります。
- 隠岐の島町南方の海域で操業する沖合底びき網は、1網あたり5～10個体程度の入網があります。数が減ってきたとのことです。
- 定置網は入網数が1日1経営体あたり1～20個体程度となり、全県的に減少傾向が続いています。
- 隠岐海峡で操業しているまき網は、1網あたり1～2個体程度の入網で、9月初旬までと比べると大幅に減少が続いています。
- 巡視船せいふうによる大型クラゲの目視調査(9月9日～19日)では、9月9日と12日に、七類港内でそれぞれ1個体ずつ確認がありました。

## 漁業情報サービスセンター(JAFIC)からの情報提供(9月20日現在)

- 対馬の定置は散発的に入網がみられますが、サイズが大型化しています。
- 鳥取の小型底びき網で1網あたり20個体程度の入網が報告されています(9月16日、淀江沖)。
- 全国底曳網漁業連合会からは、対馬周辺で1網あたり1～30個体程度の入網が報告されています(9月3日～11日)。
- 山陰旋網漁業協同組合からは、島根半島沖で1網あたり200～300個体程度の入網が報告されています(9月9日～14日)。

※詳細は漁業情報サービスセンターHP

(<http://www.jafic.or.jp/kurage/index.html>)

### 【発信者】

島根県水産技術センター  
海洋資源科 担当：石原

TEL: 0855-23-4806

FAX: 0855-23-2079

Email: [suigi@pref.shimane.lg.jp](mailto:suigi@pref.shimane.lg.jp)